



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第69号

てんまてんじん

年首御慶

丙申
元旦

表紙解説
天神画像

天満天神えびす祭
てんま天神梅まつり

菅原彦と天神旗
流鏑馬とホーリープゾーン活動

講社連合会四〇周年

洋上慰靈祭

12
頁

9
頁

8
頁

6
頁

5
頁

4
頁

2
頁



「天神画像」

猪飼謙二筆

松浦清（大阪工業大学准教授）

大阪天満宮所蔵 紙本墨画
縦一〇〇・八cm 横三九・九cm
昭和九年（一九三四）一幅

出来ることなら、その力を借りたいと願う受験生もきっと多いに違いない「学問の神」天神様。これからが受験本番という学生には、今は新年を祝う気分もそこそこ、といったところでしょうか。

天神画像にはさまざまな種類がありますが、しばしば混同されるものに菅公画像があります。天神は菅原道真公が無実の罪によって太宰府に左遷され、無念の死の後に怨霊として復活した姿に由来する画像です。

一方、菅公画像は生前の道真公の姿を描いた画像で、両者は峻別できるはずです。しかし、実際にには、太宰府に赴く途次の生前の菅公の姿も綱敷天神と呼ばれ、天神画像と菅公画像は一括して扱われます。

その理由はともかく、江戸時代以前に制作された作品は信仰の観点から取り上げられることが多く、明治時代以降には、菅公は国民道德と結びついて忠臣の代表と位置付けられるようになります。「恩賜御衣図」は

後者の好例でしょう。

菅公も天神も、その姿は通常、束帶という平安貴族の正装で表現されます。しかし、本図の表現は一般的な束帶とはかなり異質です。冠を被るのは束帶に相応しい表現ですが、束帶の上着である袍は通常の表現と異なり、長いマントのように見えます。腹部に垂下する紐を二条とする形式も、太刀を佩用するための平緒とは異なります。掛手する両手で笏を構える立ち姿も、江戸時代の作例ではあまり見ることはありません。

このように異色ともいえる姿で表現される画像ですが、本図で最も特異なのは、通常の輪郭線を持たない形式です。上着には、立涌とも格子とも解釈される文様が丁寧に表現されています。上着には、立涌とも格子も含めて、輪郭線は一切用いられていないのです。輪郭線と見えるのは文字の集合体です。そこには「天満大自在威徳天神」の九文字の連続体が記されているだけです。

本図の收納箱の蓋には「菅公御肖像」とあります。本図は明治十四年から昭和十四年（一八八一～一九三九）で、明治天皇聖徳絵画館筆者の一人です。本図を収納する箱の蓋には「昭和九年九月十五日謹製」と記されており、制作期が猪飼謙二と判読されます。明治から昭和にかけて歴史画の分野で活躍した京都の画家に猪飼謙谷（名は敬真、字が記されています。）が、猪飼謙二の生没年と重なります。猪飼謙谷が謙二を名乗ったかどうかは確認できていません。謙二は謙谷周辺の画家かもしません。ご存じの方は情報提供をお願いします。

画面右に画家の印影があり、「猪飼謙二」と判読されます。明治から昭和にかけて歴史画の分野で活躍した京都の画家に猪飼謙谷（名は敬真、字が記されています。）が、猪飼謙谷が謙二を名乗ったかどうかは確認できていません。謙二は謙谷周辺の画家かもしません。ご存じの方は情報提供をお願いします。

七五三参拝風景

三世代に受け継がれる晴れ着

咲姫ちゃんの着物も、お母様が三歳の頃に七五三参りで着用なさった着物だそうです。着物文化のすばらしさを、再認識させていただきました。

長男の遙流くんは、常に妹の咲姫ちゃんのことを気にかけて優しいお兄ちゃん精神を発揮していました。着物を通して、祖母・母・娘と受け継がれる慈愛は、遙流くんにも着実に受け継がれているようです。

今後も、当宮での七五三を通じてご家族の絆を深めて下さる皆様が更に増えますことをお祈り申し上げます。

さて、今年は「丙申」の年です。「丙」は「炳」と同義で、「あきらか」や「つよい」という意味を持ちます。字画は「一」と「口」と「入」に分解されます。

「一（はじめ）」は、陽気がグンと伸びて高まるなどを表しますが、油断すると、それが「口（かこい）」

の中に「入」つてしまい、陰気が生じることを示すのが「丙」の字義なのです。

また、十二支の九番目にあたる「申」は、俗に「猿」と同義に理解されことが多いのですが、正しくは、真っ直ぐに引き伸ばした身体を形容する字体なのです。よって、

（安岡正篤大人の著書より）

その字義は「伸長」や「伸張」の「伸」に通じます。

ですから、この一年は陽気がグンと真っ直ぐに伸びる成長・発展の年となる可能性を秘めていることになります。皆様には陰気が生じることのないように留意されながら、飛躍の年となりますことを祈念しております。

（安岡正篤大人の著書より）

（安岡正篤大人の著書より

流鏑馬式とホープゾーン活動

当宮流鏑馬の略史

十月二十五日 午後三時より本殿前と表大門前の道路を馬場として恒例の流鏑馬式が斎行されました。

流鏑馬は平安時代に始まり、鎌倉時代には武士の鍛錬のため盛んに行われていましたが、室町時代以降は武術の鍛錬としての意味合いは薄れ神事の際に奉納されることになり、今日まで各地に伝承されています。

当宮の流鏑馬の起源は定かではありませんが、戦国時代の公卿、山科言経（ときつね）が、天正十四年（一五八六）九月二十五日に当宮の流鏑馬を記録しているのが初見史料です。江戸時代に入つて一時中断されましたが、延宝四年（一六七六）に出版された『難波鑑（なにわかがみ）』には、疾走する馬上から矢を射る様子が記されています。

ところが、江戸時代後期の享和元年（一八〇一）、狂歌師・大田南畝（なんぽ）の『蘆の若葉』には、それまでとは異なる、馬上から半弓で的を打ち破る独特の流鏑馬の様子が描かれています。

当宮で流鏑馬が開始された当初は他の例のように矢を射るものでした。が、大阪市中の発展とともに参道付近にも人家が密集し、参詣者も激増したことから、安全面を考慮して当宮独特の形式が生み出されたのです。

神事の次第

先ず宮司以下神職と、狩装束を着装した本駆を奉仕する関西大学馬術部三回生赤松朋樹君、半袴を着装した前駆を奉仕する同部の三回生磯野風良君両名が本殿に参進後、修祓、宮司一拜、に続いて醴（あまざけ）など

の神饌が供えられ、宮司の祝詞奏上、拝礼を行い、宮司

その後、本駆者は神職から弓矢を受け取り、本殿前庭上にて弓祈祷之儀（四方

上空を射る所作）を行、いよいよ馬場に出て騎射之儀となり、的に向かって疾走します。

三所の的を三遍して合計九度の騎射之儀でしたが、見事に全部的中となりました。

またこの日があわせて天満地区ホープゾーン協議会の活動も例年通りに実施されました。

馬場となる表参道の両側には提灯が吊られ、町内各所の家々には幟幕

出で、三所の的を定める所作として、各所に日の丸扇を投じました。

その後、本駆者は神職から弓矢を受け取り、本殿前庭上にて弓祈祷之儀（四方

上空を射る所作）を行、いよいよ馬場に出て騎射之儀となり、的に向かって疾走します。

三所の的を三遍して合計九度の騎射之儀でしたが、見事に全部的中となりました。

またこの日があわせて天満地区ホープゾーン協議会の活動も例年通りに実施されました。

馬場となる表参道の両側には提灯が吊られ、町内各所の家々には幟幕

以下神職は拝殿の見所へ座をあらためます。

次に神職一名は本駆の馬「千王」に騎乗し、高殿を三巡しました。

その後、表大門を出て馬場を祓い清めました。

た。次に前駆者は前駆の馬「千雄」に騎乗し、同様に馬場に

乗り、馬場に拝殿に出て、三所の的を定める所作として、各所に日の丸扇を投じました。

その後、本駆者は神職から弓矢を受け取り、本殿前庭上にて弓祈祷之儀（四方

上空を射る所作）を行、いよいよ馬場に出て騎射之儀となりました。

三所の的を三遍して合計九度の騎射之儀でしたが、見事に全部的中となりました。

またこの日があわせて天満地区ホ

ープゾーン協議会の活動も例年通りに実施されました。

馬場となる表参道の両側には提灯

が吊られ、町内各所の家々には幟幕

が張られました、また、玄関先には

絵馬付き笛飾りが付けられて、風情

のある馬場先となっていました。

この馬場に面した家々では、これ

まで行われたホープゾーン事業にお

ける家の修景事例などのパネル紹介や、大阪天満宮秋大祭の神饌や流

鏑馬装束の旧物の展示などが行われ、

流鏑馬を拝観したたくさん的人が、

興味深くご覧になつていました。

結成四〇周年記念式典

まるで天神祭の歴史を語る座談会のような雰囲気で、結成当時の懐かしい思い出話に花が咲きました。

第三回 天神天満阿波おどり

今年で第三回となるこの行事は、商店街を主体に始まりましたが、今年からは、より円滑に充実した運営を図るために大阪天満宮をはじめ関西阿波おどり協会など関係する団体で実行委員会を設置致しました。

参加した連（踊りの会）は十六連で、関西の有名連な踊り手、お囃子方合わせて総勢三百六十人ものご奉仕を頂きました。

第一部では商店街での演舞、流し踊りが披露され、第二部は大阪天満宮本殿前での各連構成踊りの演舞、そして拝観者も参加できる総踊りで締めくられました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを契機に北区民センターには阿波おどりサークルも結成されることになります。

りサーカルも結成されることになります。

りおびてくることでしょう。

氣をおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

も企画されましたので、入賞作品の

一部を紹介させて頂きます。これを

契機に北区民センターには阿波おど

りサークルも結成されることにな

ります。

りおびてくることでしょう。

興味深くご覧になつていました。

境内三千人余の人があつた。

この行事に先立つて北区民センターでは阿波おどり教室が五

回にわたつて開催され、二〇〇名余の方々が参加受講されていました。

また、併催の『フォトコンテスト』

第十四回

あの人もこの人も

さて、今回ご紹介するのは、天神橋筋二丁目商店街にて土産物屋「天満天神M A I D O屋（まいどや）」を経営する女性店主、赤尾江里子さん（五〇）です。

大学卒業後、化粧品メーカー勤務を経て、祖父の代から続く文具社経営に携わり、これまで得た経験と人脈を元手に、かねてよりの「商店街にお越しのお客様を楽しませたい！」

「商店街を盛り上げたい！」という夢の実現のため、昨年四月に「M A I D O屋」をオープンされました。

このお店に並ぶ品々は、赤尾さんが「こだわり」の末に選び抜いた一品ばかりです。明治初期、大阪平野の堅下（カタシモ）を開墾以来、一〇〇年の歴史を誇る葡萄畠カタシモワイナリーから産まれた「柏原ワイン」、また、日本で唯一の綿実搾油メーカー「岡村製油株式会社」の綿

実油や、硝子工業発祥の地である天満を代表する工芸品「天満切子」の名品、まさに大阪の「ええもん」を集めた土産もん屋なのです。暖簾の上には、「すかたん」「あんじょう」「ごんだ」など、今ではあまり耳にしなくなつた懐かしい大阪弁を記した提灯が飾られる事からも、大阪へのこだわりが窺えます。

赤尾さんのこだわりは品選びに留まらず、生産元へ出かけ、製造過程の見学や、実際に畑仕事に取り組むなど、生産者とのコミュニケーションにも余念がありません。

そんなこだわりの経営のかたわら、当宮御車講の講員として毎年の天神祭にもご奉仕下さり、また天神橋筋二丁目商店街、初の女性理事の堅下（カタシモ）を開墾以来、一〇〇年の歴史を誇る葡萄畠カタシモワイナリーから産まれた「柏原ワイン」、また、日本で唯一の綿実搾油

メーカー「岡村製油株式会社」の綿

店街や地域の為にお役に立てる事が出来れば、出来ることは何でもするつもりです！これからも感謝を忘れず精進したいです。』と仰います。

大阪の「ええもん」を集めたこだわりのみやげもん屋「天満天神M A I D O屋」。皆様も是非一度、暖簾をくぐつてみては如何ですか。笑顔が素敵な店主さんが迎えてくれますよ！

今日もかも清き川瀬に蛙鳴くあの日に帰る道あらなくに

西宮牛田真理子深山よりにしみ来たるかせせらきの小石に乗りて君恋ふ河鹿

大阪金生久夫か津

西脇滋保

か津

わか恋をひとつ知りをり星月夜青き少女の影をおいたり

神戸鈴木敬子

西宮牛田真理子



ヴァイオリニスト NAOTO 奉納演奏

NAOTO氏は、十代の頃からプロミュージシャンのレコード・デイニングやライブサポートに参加し、現在では、作曲家、編集家、音楽プロデューサーなど、幅広い活躍をみせる有名ヴァイオリニストです。

去る九月二十一日、当宮にてヴァイオリニストNAOTO氏のコンサートライブ「NAOTOな音もダチ」が開催されました。

NAOTO氏は、十代の頃からプロミュージシャンのレコード・デイニングやライブサポートに参加し、現在では、作曲家、編集家、音楽プロデューサーなど、幅広い活躍をみせる有名ヴァイオリニストです。

平成二十八年 カレンダー



同日十五時、御本殿にてヴァイオリンによる「君が代」の演奏が奉納され、十七時より天満宮会館「孔雀ノ間」にてライブが開演されました。会場に詰め掛けた多くのファンの方々は、NAOTO氏が奏てる美しいヴァイオリンの音に、うつとりと耳を傾けておられました。

NAOTOさん、またのご来宮を心よりお待ち申し上げております。

赤尾さんは「これまで様々な方の助けがあり私の現在があります。商

会社の新任

平成二十七年十月一日付

人事任免

平成二十七年十月一日付

天神祭渡御行事保存協賛会 会長
大阪商工会議所 会頭
京阪電気鉄道株式会社 最高顧問
佐藤茂雄（享年七十四歳）

■ 帰幽報告 ■

- 15 -

- 14 -

お守り紹介

新しく

「咲き守り」 が仲間入り



「咲き守り」を肌身離さずお持ちいただきますことで、深く厳しい寒さの中も咲き誇る梅花のように、皆さまの人生にも、苦難を乗り越えて花が咲くように祈願しております。
まもなく二月十一日～三月十三日には「てんま天神梅まつり」が開催されます

各地の神社では様々なお守りを授与していますが、当宮でも皆さまのお心に添えるように、様々な趣旨のお守りをご用意しております。

日々の参拝者の中には、「おじいちゃん・おばあちゃん守り」をプレゼント用に受けられるお子様がいらっしゃったり、カッフルで揃いの守りを受けられたり、ときには何かに思い詰めたように真剣なお顔で授与所の巫女に問い合わせせる方もいらっしゃいます。

以下には、以前から皆さんに親しんでいただいているお守りを紹介しておきます。



良縁御守



自動車守



交通安全守



病気平癒



厄除守



肌守



ランドセル守



こどもがんばろうなかよし守

おじいちゃん
おばあちゃん守

勾玉守



鸞鳥守



福小判



金運守

この防火壁は、大正時代、昭和初期、昭和五〇年代、平成九年頃と、北側から順に建築と改修が行われ、平成七年の阪神大震災にも倒壊することはありませんでした。

ところが、東北大震災の後あたりから破損箇所が目立ち始めたので、昨年五月からコンクリート壁を解体し、ブロックとアルミ製の低い壁に新調しました。

参拝者の目に触れる場所ではあります。参拝者が境内施設を安全に維持管理することも大事なことと考えています。

境内西側の境界部分には、巨大な石垣と、それに連なる高さ六メートルのコンクリート造りの防火壁があります。

編集後記

記

大阪天満宮社報
てんまてんじん 第69号

平成27年12月25日印刷
平成28年1月1日発行

発行人 寺井種伯
発行所 大阪天満宮社務所

〒530-0041
大阪市北区天神橋2-1-1-8
印 刷 所 木村印刷株式会社
TEL 06-6353-0025